

2学期の生徒指導に関するチェックシート

西部教育事務所

西部教育事務所では、今年度、「認め合い、支え合い、高め合う心を育む生徒指導の充実」をお願いしています。2学期の自校における生徒指導の取組について、以下の観点から振り返り、成果と課題を明らかにしておきましょう。課題がある場合は、全教職員で改善策を検討し、具体的な取組を進めましょう。



A：十分できている B：おおむねできている C：改善が必要である

項目	No	内 容	評 価 (○を付ける)
授業・学級経営	1	生徒指導の3つの機能（自己決定、共感的人間関係、自己存在感）を生かした授業や学級経営を実践している。	A・B・C
	2	問題行動の未然防止に向け、児童生徒の自己肯定感を育む声かけをしている。 例① 児童生徒の話最後まで聞いたり、「できているね。」「がんばっているね。」「ありがとう。」などの児童生徒を認める言葉を伝えたりしている。 例② 「～してはいけない。」という否定的な表現だけでなく、「～しよう。」という肯定的な表現で、児童生徒に接している。	A・B・C
	3	問題行動が起きたとき、児童生徒の行為に対する指導だけでなく、その背景にある環境や要因に目を向け、児童生徒の心に寄り添った指導・支援をしている。	A・B・C
	4	児童生徒の実態を踏まえ、構成的グループエンカウンターや自分の気持ちをコントロールする学習などを取り入れ、望ましい人間関係づくりを進めている。	A・B・C
	5	悩みを抱えた時、児童生徒自身がどのように行動すれば良いのか考える場面や助けを求める大切さについて考える場面を設けている。	A・B・C
組織的な支援体制	6	学校で目指す児童生徒の具体的な姿や生徒指導の重点、生活のきまりなどについて全職員で共通理解している。	A・B・C
	7	「学校評価アンケート」や「生活アンケート」、「日常的な観察」で把握した児童生徒の実態を全職員で共通理解している。	A・B・C
	8	いじめ、不登校、問題行動等に対し、全職員の共通理解のもと、役割を分担し、組織的・継続的な指導・支援をしている。	A・B・C
	9	児童生徒の実態に応じて、保護者やSC、SSW、関係機関（適応指導教室、児童相談所、民生委員等）と連携し支援している。	A・B・C
	10	生徒指導関係の研修や通知・配布資料等を生かして、学校全体の生徒指導力の向上に努めている。	A・B・C
いじめ	11	法律上のいじめの定義や重大事態に対する対応についてなど、自校の学校いじめ防止基本方針の内容を理解し、その方針に沿って生徒指導を行っている。	A・B・C
	12	いじめについて学級で考える機会を設定するなど、いじめは絶対に許さないという学年・学級の気運の醸成に努めている。	A・B・C
	13	PTAや地域の関係団体などとともに、いじめの問題について協議する機会を設け、いじめの根絶に向けて地域ぐるみの対策を進めている。	A・B・C
不登校	14	不登校児童生徒の一人一人の状態や環境にあった適切なアセスメントやプランニングを行っている。	A・B・C
	15	休み始めに電話連絡や家庭訪問を行ったり、校内に相談しやすい居場所を設けたりするなど、登校しやすい環境作りに努めている。	A・B・C
問題行動	16	インターネット端末の正しい使い方について、家庭と連携を図りながら計画的な指導を行っている。	A・B・C
	17	万引・喫煙・暴力行為・器物損壊等を未然に防ぐための指導・支援を行っている。	A・B・C